

飛騨高山高書道部、茂住さん共演

巨大和紙に力強い筆致

高山市の飛騨高山高校書道部が、同市花里町の花里小学校で書道パフォーマンスを披露した。書家で、元号「令和」を揮毫した茂住菁邨さん＝飛騨市古川町出身とのコラボ企画で、真剣な表情で筆を執る生徒たちの姿に来場者約150人が見入った。

(玉田健太)



茂住菁邨さんも見守る中、書をしたためる生徒＝高山市花里町、花里小学校

高山市で イベント 夏の詩したためる

今月20日から5日間、さまざまな子どもらに墨書の楽しさを知ってもらおうと、市民有志でつくる実行委員会が企画したイベント「墨書にふれあう夏の5日間」茂住菁邨とともに「」の一環で行われた。

1～3年生の部員7人が、夏をイメージして考えたという詩を、縦3・3行、横4行の巨大な和紙にしたためた。茂住さんが書いてくれた手本を基に、約1カ月練習を重ねてきたという成果を披露し、茂

住さんも見守る中、立派な作品に仕上げた。部長の3年下梶谷優さんは「普段のパフォーマンスとは違った雰囲気の中、ふさわしい作品に仕上げる事ができたと思う」と話した。

普段は人前で書くことはあまりはしないという茂住さんも、「令和」の文字を書きや楷書などさまざまな書体で墨書する姿を披露し、来場者がスマートフォンなどで撮影し



来場者が見守る中、令和の文字を揮毫する茂住菁邨さん＝同